時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商况物價の報告あり

時事新報

第三千二百八十三號　日曜日
明治廿五年三月六日　(丁酉)
舊曆壬辰二月八日
日 出午前六時六分 入午後五時四十分
月 出午前十時三十九分 入午前零時四十九分
滿潮 午前十時廿分 午後十時四十七分
(西曆一千八百九十二年)

時事新報定價
時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十、〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊
〇時事新報社ヨリ直接ニ遞送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ遞送料ヲ申受ク
時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿れ付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐること寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

新政黨の風說

近頃世間の風說を聞くに政府は新議會に對する政略の第一着歩として議會中の無所屬議員及び民間の有力者を糾合して新政黨を組織するの計畫ありと云ふ今日の政治社會に超然主義など唱へて政治の外に逍遙せんとするが如きは時勢の許さゞる所なれば政府の人々も目下の必要に迫られて政黨組織の計に出でたるものならんに我輩の贊成する所にして一日も早く其發表を見んと欲するものなれども實際の趣向は如何なる可きや兼々我輩の希望の如く今の內閣員が自から主義を發揮し全員擧て共事に盡力するの覺悟なるや又は當局者は依然超然の主義に安んじながら政府に緣故ある老輩の政治家が政府外に政黨を組織し內外相應して互に聲援するの計畫なるや若しも政府外の新政黨とありては其成行に付き或は掛念の筋なきを得ず表面より見れば政府は依然政治外に超然の姿を爲して相變らず有爲無爲の間に逍遙し實際政治上の運動斷引は隱然たる新政黨にて引受るとあれば從來揚言の主義にも撞着せずして一通りの體裁、縫ひ得て妙あるが如くなれども我輩の想像にては何分にも之に安んずるを得ず今その想像の次第を陳べんに新政黨が果して社會に勢力を得て議會に多數を占るときは他の民黨を壓倒すると同時に政府をも左右するを難きに非ざれば必ずしも政黨として外に在るを要せず直に政府を取て之に代る可し隨分愉快なることなれども新政黨を組織するに當りて差向き之に應ずる者は如何なる種族にてある可きや之を思はざる可らず徹頭徹尾現政府に反對せんとする過激主義なれば既に自由改進の兩政黨あるが故に必ずしも新政黨を待たずして運動自在なる可し左れば新黨の本意も固より政府に反對するにあらざれば今の所謂無所屬又は政府黨の人々を糾合せんとするか自然の勢なるが如くなれども其人々は無限の利害情實よりして現政府に左袒し唯政府と名くる其名義を目的にして之に集まるものなれば其政府の外に政黨の起るを見ても容易に之に走ることはなかる可し如何となれば假りに新政黨を以て政府の代表者とするも政客の身と爲りて考れば間接に代表者に從ふよりも直接に其本家なる政府を助ること利益なる可ければなり故に新黨の首領たる可き老輩の爲めに謀れば最初より現政府に心を寄せずして公然たる獨立の團體を作り自由自在に言論を逞ふする共間に彼の自由黨改進黨に向ては云々の主義を殊にすると正反對に立ち又政府に向ても其施政の不都合を鳴らして之を攻擊し左右に政敵を引受けて一種の新主義を唱へたらば或は之に應ずる者もある可しと雖も若しも然らずして本來の目的とする所唯現政府を助けんとするの一方に在ることならば其首領は先づ政府に入り暫時にても政權を握る其間に政黨を組織し其黨勢を利用して全權の地位を固くするの工風もある可し何分にも政府外に政黨を作り之を政府の政友として其聲援を利用せんとの策は言ふ可くして行ふ可らず政黨の勢力盛なれば政府は有れども無きに等しく其勢力微弱なれば之を頼むに足らず況んや政海の變化極りなくして今日の政友も明日の敵たるを計る可らざるに於てや我輩の想像に於ては安んずるを得ざるなり然りと雖も是式の想像は當局の本人に於ても既に已に斷きたることならん之を想像し之を思案し果して新政黨の利益を發明して方寸の決する所、復た動かす可らざることあらん政治の事情に不案內なる我輩の敢て喙を容る可きにあらざれども婆心自から禁する能はずして試に一言を呈するのみ

官報

〇朕茲ニ屯田歩兵隊家屋其他燒失品再給費及憲兵隊派遣費トシテ明治二十四年度豫算外支出ノ件ヲ裁可ス

御名　御璽

明治二十五年三月四日

內閣總理大臣兼大藏大臣 伯爵松方正義
文部大臣 伯爵大木喬任
外務大臣 子爵榎本武揚
遞信大臣 伯爵後藤象二郎
海軍大臣 子爵樺山資紀
農商務大臣 陸奧宗光
陸軍大臣 子爵高嶋鞆之助
司法大臣 子爵田中不二麿
內務大臣 子爵品川彌二郎

勅令第二十二號
屯田歩兵隊家屋其他燒失品再給費及憲兵隊派遣費ニ充ツル爲左ノ金額ヲ支出ス
一金五百七十五圓五十七錢　屯田歩兵隊家屋其他燒失品再給費
一金二千八百一圓八十錢　憲兵隊高知縣派遣費
一金千六百六十一圓四十一錢　憲兵隊佐賀縣派遣費

〇內務省告示第十六號
一史學會雜誌　第二十三號　第二十四號　第二十五號
東京市神田區鍛冶町三番地中村小兵衛發行
右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス
明治二十五年三月五日
內務大臣子爵品川彌二郎

〇內務省告示第十七號
一史海　第八卷
東京市京橋區彌左衛門町七番地鹽嶋仁吉發行
右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス
明治二十五年三月五日
內務大臣子爵品川彌二郎

〇遞信省告示第五十一號
一貨幣封入郵便物受授見合印鑑　第百六十九號　第二百九十九號
內國通運會社ヘ下渡ノ分
右印鑑紛失ノ旨今般屆出候條所在發見ノモノハ本省ニ屆出ツヘシ
明治二十五年三月五日
遞信大臣伯爵後藤象二郎

雜報

〇日本生絲貿易の將來　に係りて近頃世人の憂慮する所のものあり佛蘭西は去る明治二十一年以來伊國の生絲に對し一基(二百六十六匁餘)一法(フランク)の輸入稅を課せしに去月新海關稅則を定めて全く之を免除したるうへ自國の蠶業を奬勵せん爲め繭一基に凡そ十錢、生絲一基に五法宛の保護金を與ふることゝ爲したるに就ては將來佛國に輸入すべき日本生絲の蒙るべき影響一方ならざるべし曩に佛國に於て伊國絲に輸入稅を課せしや其前二百萬基內外の輸入ありし伊國絲は忽ち百萬基近くを減じて日本絲は忽ち五十萬基餘りの輸入を增加したるの事實あり當時伊國絲は佛國の販路を縮めて需用を獨逸瑞西等に求め方今是等諸國の市場を專らにし居るが故に佛國の關稅免除と聞くも直ちに盛り返へして以前通りに積送る程のことなかるべしと雖も兎に角日本絲は容易ならざる競爭を受けて多少其の販路を縮めらるゝことあるは必定なり去れど此輸入稅額は一基に付一法にして日本の百斤に十六圓餘に止まるものなれば價格に差響くこと格別ならざるべしと雖も佛國の蠶業奬勵金は生絲百斤に八十餘圓を與ふるものにて繭にも若干を與へたるうへ又生絲の保護に此巨額の金を以てするものなれば從來六七十萬基を產出する佛國生絲も是より年々其產額を增加して漸次日本絲の需用を減少することあるべしと見ざるべからず蓋し今より二十年前には佛國生絲の產額も今の二倍に上りたるものありしかど微粒子病の發生に連れて日本絲伊國絲の競爭ありしより漸次蠶業の衰へたるものあれば若しも其奬勵金の永く續くに於ては斷に倍して多額の生絲を產出するに至るべきは明かなり元來日本絲の多分は米國に輸入するものにて佛國は之に次ぐものなりと雖も年々百五六十萬斤八九百萬圓の得意場に於て此の恐るべき事あるに當りては本邦の蠶業に關係ある者頗る注意すべきことなるべし去れば此際輸出稅の廢止なり又生絲檢査所の設置なり總て生絲貿易に好結果を見るべしと思はるゝことは能く實際の利害を討究して其の行ふべきは一日も早く實施する樣心懸けざるべからず蓋し佛國の奬勵金の如き頗る多額にして伊國絲の輸入稅とても尠からざるものなれば競爭頗る困難なるべしと雖も決して將來望みなきにはあらず從來日本絲は價格品質共に劣りたる品多く佛國へ輸入するものあれば通例品質の極めて良好なる佛國絲伊國絲の外に需用を求むること難からざるものあり是れ伊國の製絲場に於ては日本絲は經絲に使用せらるゝこと少くして大抵緯絲となるものなるが故に品質は格別良好なるを要せずして佛國へ輸入する日本絲平均百斤の價は米國輸入絲の平均
直段よりも五六十圓下れるの事實あり
品質の劣れる絲を佛國へ輸入せら
國絲と云ひ佛國絲と云ひ何れも通
絲に使用するものなれば多少の保
緯絲までに用ふることは少かるべ
日本絲も適當の保護奬勵の策を立
決して望みなきに非ず云々と其道

〇北京駐在英國公使　上海より近
る英人を尋ね談話の序に哥老會一
盟暗合國より北京政府へ談判の模
聞紙上久しく此事に接せずと問ひ
嘆息の模樣にて今の英公使ワルシ
如き人にて何事も手强くすること
の云ふ儘になり居れり我々居留英
き請求したることあれども措て之
般の利害を度外視する人を派遣し
る能はず云々と答へたり都て支那
して不服なるが如く英字新聞杯め
見受けたりと

〇倫敦の日本會　英國倫敦に於て
アーナスト・サトー氏、プロフエ
ン氏、プロフエッソル　チャーチ
アブール名譽領事)ブラウン氏(
大越成德氏等外數名が發起者とな
び與大五郎氏が名譽書記となりて
び實業に關する諸般の事を研究す
定期に會合せんとの計畫あり近
月下旬に其第一回を催す筈なりと

〇東京茶業組合役員會議　は一昨
鍋町の同事務所に於て役員會議を
深瀨、相澤、內山、松下、渡邊の諸
合會開會に就て各委員の意見を
會創立の件に付種々協議を爲し
府廳に赴き聯合會用として同廳
に付打合等を爲し同五時頃散會

〇米國世界博覽會出品に就て
博覽會へ出品する貨物は總計二
噸數八百九十九噸餘にて其價格
十二圓二十二錢なりと云ふ倘は
て瀨藤萬治郎、黑田茂助、森本善
り千田愛知縣知事に向て右出品
品人總代渡航費補助として地方
の請願書を差出したるに知事は

〇米國に於ける日本ホイスキー
折課長たりし高峯讓吉氏が發明
する釀酵母は此道に取り至極有
米國政府より特許を受けしが今
に高峯釀酵會社なるものを設立
見込にて株金を募集せしに中々
なりしに就ては同省の技師清水
として同會社に招聘せられ既に
りと云ふ

〇漁獵の途切、肥料白眼合の
の漁況一變し鰯を始め鯛等の
果ては數年來稀れなる盛況を呈
商は目先多數の入津ありて亂
ければとて何れも手控へ居た
斯かる盛漁なりしにも拘はら